



Title	IKIGAI (いきがい) : A Local or Universal Factor for Happiness and Productivity? (研究報告者 Annie Tubadji)
Author(s)	町野, 和夫
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 9, 34-35
Issue Date	2020-03-30
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/78538
Type	article
File Information	050_REBN_09_034.pdf



[Instructions for use](#)

<セミナー>

IKIGAI (いきがい)

: A Local or Universal Factor for Happiness and Productivity?

(研究報告者 Annie Tubadji*)

解説 町野 和夫

8月21日(水)に経済学研究棟3階会議室において開催されたREBNセミナーでは、西英国大学(University of the West of England)上級講師のアナ・カレド・トゥバジー氏、および、日仏会館・フランス国立日本研究所の研究员でリヨン国立研究大学院の経済学教授のジャン・パスカル・バッシーノ氏の報告があった。

トゥバジー氏は、本研究院の特任講師(2019年6-8月)でもあり、専門分野は本学にはない文化経済学である。出身はブルガリアだが、英国、ドイツで学ばれ英国、ドイツ、ギリシャ、で研究・教育経験があり国際的に活躍されている。

数理的理論化が進んだ従来の経済学(新古典派経済学)に対し、文化経済学は近年の行動経済学や幸福の経済学の成果を応用して価値観を(主観的ではなく)客観的に扱うことで、初期の経済学が持っていた人間を総合的に分析しようとする試みの現代的再生を目指している。特に氏は日本の「生きがい(IKIGAI)」概念に注目して、この概念の構成要素が「幸福度」を(少なくとも部分的に)説明するユニバーサルな要素たりうるかについて、後述するように「生きがい」に関連すると思われる質問項目が含まれる第2波(1990, 91年)の世界「価値観調査(The World Value Survey (WVS))」のデータを用いて検証した。この第2波調査では日本を含む13か国(アルゼンチン、ブラジル、チリ、中国、チェコ、インド、日本、韓国、メキシコ、ナイジェリア、ロシア、スロバキア、スペイン)から17,220の回答を得ている。

「生きがい」の定義としては、Hasegawa *et al.* (2001)に従って(i)愛するもの(こと)、(ii)得意なこと、(iii)世界(社会)が必要としていると感じること(iv)報酬を得られること、の4要素を含むものと捉えた。上述「世界価値観調査」第2波(1990, 91年)では、「仕事」に関しての、この4要素に対応する価値観を問う下記の4つの質問項目が含まれていたため、これらの要素が仕事にとって重要かという問いにyesと回答した場合それぞれ1ポイントを与え、その合計点を各回答者の「生きがい」の点数とした。なお4つの要素とは、

- i) 面白いか(上記「愛すること」に対応)
- ii) 能力に適しているか(上記「得意なこと」に対応)
- iii) 社会に役立つか((上記「世界が必要としていると感じること」に対応)
- iv) 良い報酬か(上記「報酬を得られること」に対応)

である。

こうして測られた「(仕事における)生きがい」やその他の個人的属性、対象国間の文化の近さ、などの変数を説明変数とし、賃金(生産性の代理指標)、生活(あるいは人生)の満足度、仕事の満足度、という3項目について、回答者によるそれぞれ10段階評価の点数を被説明変数として回帰分析を行った。

分析の結果、(仕事における)生きがいの指標は、上述のどの国においても、生産性と主観

* スウォンジー大学(英国)経営学部上級講師。

的幸福度（満足度）の両方に相関していることが示された。また、相関の特徴としては、生産性に対してはアリストテレス-クズネッツ曲線（i.e., 当初は説明変数（「生きがい」）の上昇に伴って上昇するが、ある点を超えると減少する曲線）の性質やプラトンの文化的バイアス（i.e., 倫理観における文化的なバイアス）の存在も（統計学的頑健さについては確認されていないもの）示唆された。

以上のように価値観を客観的に（計量経済学的手法で）分析することで文化経済学の実証的

研究を開拓するというトゥバジー氏の試みはある程度成功しており、今後の進展が期待できる。

参考文献

- Hasegawa, A., Fujiwara, Y., Hoshi, T. (2001) The Review of Ikigai: On the Relationship of Ikigai and well-being in the Elderly, *Comparative Urban Studies*, 75(9): 147-170.